

報告

第13回高知福祉機器展に参加して

東洋大学 人間環境デザイン学科 繁成 剛

第13回高知福祉機器展(バリアフリーフェスティバル2014)は、6月13日から15日まで、高知県立ふくし交流プラザで開催された。主催は高知福祉機器展実行委員会、生き生きサポートセンターうえるば高知、高知県社会福祉協議会である。この展示会の特徴は、運営スタッフ数の多さと充実したセミナー、そして熱気溢れる会場の雰囲気だろう。実行委員会には近隣の社会福祉施設、病院、特別支援学校、関連企業、障害者団体などから今回は456名のスタッフが集まっており、そのうち学生ボランティアは108名に上る。出展企業は151社で説明スタッフは451名が参加している。来場者数は1,787名で、そのうち高知県内が1,276名、県外が511名となっている。来場者の業種は介護職、看護師、福祉用具専門員、相談員の順に多い。

高知福祉機器展は四国で最初に開催された本格的な福祉機器の展示会であるだけでなく、第一線で活躍している多彩な講師を招き、福祉用具の選び方と使い方についての知識と技術の伝達を積極的に続けているところが、他の展示会にはない特色となっている。筆者も第1回から姿勢保持に関する講演をさせていただいたり、実際にウレタンフォームや強化段ボールを使って、来場した利用者に合わせた姿勢保持具を制作するワークショップを数回実施してきた。その他にも食事、移動、移乗、排泄、コミュニケーション支援、住宅改修など障害者や高齢者の日常生活に必要な支援技術の情報提供に力を入れている。来場者のアンケートには次のようなものがあり、満足度が高いことがうかがえる。

- ・「毎年たくさんのスタッフの支えでこの展示会を開催していただけること、本当にありがたく思い足

を運んでおります。スタッフの皆さん、本当にお疲れ様でした。」

- ・「スタッフと業者の方と来客者がとても近くで話ができることがとても良かったです。知らないことも多く、勉強になりました。」

この展示会を企画運営の中心的存在であり、「うえるば高知」の代表として活躍している理学療法士の下元圭子さんに展示会に関してうかがう機会があった。展示会の各ブースを担当しているスタッフが、車椅子やベッドや移乗関連機器等の担当分野について、開催前に何度も打ち合わせや勉強会を繰り返す中で、次第に福祉用具の知識と支援技術に詳しくなっていく、職場に戻ってからそのノウハウを活かして、確実に環境が改善している施設や病院が増えているということだった。特に若い世代のスタッフが確実に成長していることを感じているようだ。この高知方式とも言える展示会のあり方を学んで、各地で開催したいという団体が増えているという。このように福祉機器展の開催を通して、福祉用具や支援技術に精通した地域の人材を育成することで、地域における社会資源の少なさをカバーし、福祉や介護の現場の環境を改善していくというスタイルは今後の福祉機器展のあり方の一つの模範になっていると考える。支援技術の普及を目標としている日本リハビリテーション工学協会としても、高知福祉機器展の今後の展開に注目し、様々な形でバックアップしていきたいと考えている。



ウレタンフォームや強化段ボールを使い姿勢保持具を制作するワークショップ

東洋大学 人間環境デザイン学科
〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1